

GOVERNOR'S

7

2026-27 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2560

MONTHLY LETTER Vol.01 2026.JULY

2026年1月13日 アメリカ・フロリダ州で開催された国際協議会会場にて
2026-27年度 RI 会長 オラインカ・ハキーム・ババロラ氏、令夫人



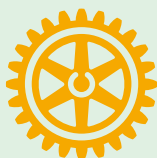
月信7月号 Contents

- ① ガバナーメッセージ
- ② 地区幹事挨拶
- ③ 地区財務委員挨拶
- ④ クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー
- ⑤ 青少年交換学生 九州研修旅行・全国青少年交換研究会
- ⑥ 山の会

- ⑦ 防減災セミナー
- ⑧ 第1回米山記念奨学生親睦交流会
- ⑨ 地区主要行事予定 (7月・8月)
- ⑩ 新入会員紹介・訃報
- ⑪ コーディネーターニュース
- ⑫ ハイライトよねやま



Rotary
第2560地区



**CREATE
LASTING
IMPACT**

国際ロータリー第2560地区 ガバナー 富山 洋
2026-27年度 ガバナー事務所
〒949-8061 新潟市中央区西堀通七番町1574
TEL.025-222-2561 FAX.025-222-2565



ガバナー就任のご挨拶

2026-27 年度ガバナー

富山 洋 (雪国魚沼 RC)

2026-27 年度ガバナーとしての一年が、いよいよ始まります。まずは、この大役をお預かりするにあたり、皆さまから寄せられた温かいご支援に心より感謝申し上げます。

ガバナーノミニーデジグネート、ガバナーノミニー、ガバナーエレクトの3期の研修はガバナーへと続き、私にとって多くの気づきと学びの連続でした。共に励まし合った同期ガバナー、導いてくださったパストガバナーの先輩方、そして地区役員・クラブの皆さま、事務局の皆さまのお力添えがあったからこそ、今日の私があります。

この数年間を振り返ると、ロータリーは私に数え切れないほどの「出会い」と「感動」を与えてくれました。国際協議会での刺激的な体験、同期の突然の訃報や交代劇…、その一つひとつが胸に深く刻まれています。

尊敬する先輩からいただいた「出会いが人を変え、感動が人を創る」という言葉の通り、ロータリーでの経験は、私の心を揺さぶり、人としての在り方を問い直す貴重な機会となりました。ロータリーでなければ出会えなかった仲間、ロータリーでなければ考えなかった問い。そのすべてが、私にとってかけがえのない財産です。

今年度、私は地区目標として
「ロータリーで人生をより充実させよう」
を掲げました。

ロータリアンの多くは事業に成功し、社会で活躍されている方々です。すでに豊かな人生を歩んでこられた皆さまが、奉仕を通じて「他者（ヒト）」のために行動するとき、その人生はより深く、意義あるものへと変わります。

奉仕の形は一つではありません。

寄付という形で支える人、行動で汗を流す人、高潔な職業倫理を保ち、地域の模範となる人、ロータリーの精神を周囲に伝える人。どれも尊い奉仕であり、どれもロータリアンとしての誇りです。

私たちが「良い人」であり続けること、それこそが、地域にとって最も大きな価値となります。今日の小さな一歩が、未来の大きな希望につながり、やがて「持続可能なインパクトを創造していきます」。

どうか皆さま、ロータリークラブがさらに輝く未来へ進むために、この一年を共に歩んでまいりましょう。



地区幹事就任挨拶

地区幹事

井口 司 (雪国魚沼 RC)

このたび、2026-27 年度国際ロータリー第 2560 地区の地区幹事を仰せつかりました雪国魚沼ロータリークラブの井口 司と申します。先輩方が紡いで来られた歴史と伝統のある当地区の運営に携わることとなり、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

本年度、富山ガバナーの地区方針「ロータリーで人生をより充実させよう」のもと、力不足ではありますが地区運営の中核をお預かりする立場として、クラブと地区、そしてロータリアン一人一人をつなぐ潤滑油としての役割を地区スタッフと共に果たしてまいりたいと存じます。

具体的には、地区 4 大行事や各種委員会活動を円滑に進めるために、ガバナー及び地区役員の皆様と連携しながら情報共有と地区事務所の機能充実に努めます。そしてガバナー公式訪問を通じて各クラブの皆様の声をお聞きし風通しの良い地区運営を目指してまいります。

重ねてになりますが、まだまだ力不足ではございます。ガバナー並びにガバナー補佐の皆様、地区役員の皆様、クラブ会長はじめ会員の皆様、そして地区事務所スタッフの皆様よりご指導とご協力を賜りながら一年間努めてまいる所存です。

結びに、本年度が第 2560 地区のさらなる発展と各クラブの充実につながる一年となりますことをご祈念申し上げ就任の挨拶といたします。





富山年度のスタートにあたり

地区財務委員

大竹 一夫 (雪国魚沼 RC)

ノミニ一年度から引継会、結団式、渡米壮行会、三役会等各種会合にオブザーバーも含め参加させていただき、地区財務委員としての任期もエレクト年度から始まっておりますが、新年度の2026年7月に入り、いよいよ本番の富山年度がスタートしました。

予算編成をするにあたり、今年度の会員数の推計につきましては、過去2年間で減少傾向にはないことから、2026年7月の会員数を、2025年12月31日の会員数2025名と同数といたしました。

収入につきましては、一人当たりの分担金（一般会計・特別会計）は、前年度と同額とさせていただきます。

支出につきましては、物価高騰の影響も大きくありますが、地区大会等補助金については、前年度増額しましたので、同額とし、事務所運営費につきましては、特に会議費・旅費は増額とさせていただきます。

各委員長の皆様には予算編成にあたり、基本的には増額できない、会議の方法・会場等を工夫していただきたい旨をお伝えし、多大なご協力をいただきましたこと、この紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

繰越金の一部を使う予算にもなっておりますが、富山ガバナーの「ロータリーで人生を充実させよう」の地区目標のもと、着実な事業運営・予算執行に努めてまいりたいと存じます。

一年間どうぞよろしくお願いいたします。



クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーを終えて

クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー実行委員長
駒形 幸貴（雪国魚沼 RC）

2026年5月23日土曜日 南魚沼郡湯沢町のNASPAニューオータニの1階鳳凰をメイン会場に、国際ロータリー第2560地区2026-27年度のクラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（CLLS）が開催されました。昨年までの地区研修・協議会から名前を変えての開催となりました。遠方にも関わらず第2560地区全域より400名余りのロータリアンの皆様からご参加をいただき、非常に活発で実りあるセミナーとなりました。午前の全体会議では、富山ガバナーエレクトから、オンラインカ・ハキーム・ババロラ会長エレクトからのメッセージ「持続可能なインパクトを生み出そう」の下、インパクトある活動と「世界をオープンに受け入れる」ことを強調された国際協議会の報告と、「ロータリーで人生をより充実させよう」という地区の目標を掲げた、新年度の地区運営方針の説明がなされました。また、高橋秀樹地区ラーニングファシリテーターより、ご挨拶と目的について説明をいただき、「クラブの活性化について」という演題で、ご講演をいただきました。午後からは6つのセッションに分かれて各委員会の方針と説明がなされ、セッションによっては講義形式だけでなく、グループディスカッション形式とするなど工夫を凝らした形での意見交換がなされました。午後の全体会議では、各委員長よりその模様が発表され、学びある内容となりました。親睦交流会では、第6分區で活躍しているキッズミュージカル『魚沼産☆夢ひかり』の皆様から会場を盛り上げていただき、最後の「手に手つないで」まで大変充実した一日となりました。このセミナーを生かして、第2560地区と各クラブの活性化に繋がりますことをご祈念申し上げるとともに、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました。





2025-26年度青少年交換受入学生九州 研修旅行／青少年交換研究会・福岡大会

青少年交換委員会

副委員長

佐田 直人（長岡 RC）

去る5月28日から2日間、長期IBS（インバウンドスチューデント）のマーシャル（出身国、カナダ／ホスト、村上RC）、ジョーダン（出身国、アメリカ／ホスト、高田東RC）、そして青少年交換委員メンバーと共に九州福岡の研修旅行に行ってきました。福岡市内の櫛田神社などを散策し、翌日には門司港まで足を延ばし、日本の歴史・異文化を学ぶことができました。2人とも新潟にはないこの地域ならではの食べ物にも興味を持ち、何でも選り好みなく食べていることに興味しました。

研修旅行に引き続き、5月30日から2日間、青少年交換研究会・福岡大会にも長期OBS（アウトバウンドスチューデント）予定の2名とROTEX（交換学生OB、OG）2名も加わり参加してまいりました。国別IBS紹介に始まり、IBS、OBS、ROTEXはエクスカッションで太宰府天満宮へ、ロータリアンは基調講演、パネルディスカッション、そして分科会に参加しました。大懇親会はロータリアンのJapan－Night、そしてIBS、OBS、ROTEXのRotex－Nightの2会場で同時に開催されました。IBSの2人は同年度の交換学生と再会し更なる交流を深め、大いに盛り上がっていたようでした。2日目は各種報告が行われ、研究会旗が次回名古屋大会へ引き継がれ閉会しました。IBS、OBSともにこのかけがえのない体験を活かして、日本と母国の親善大使として、大いに活躍してもらいたいです。

今後とも青少年交換事業へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、報告いたします。





「山の会」 報告書

「山の会」 会長 **本間健一郎**
幹事 **鹿嶋 和子**

室賀ガバナー年度の「山の会」は2026年5月29日～30日に実施しました。

今年度は、金曜日～土曜日の開催とさせていただきました。

両日とも晴天で日本海からは、心地好い風が爽やかさをプレゼントしてくれました。

寺泊海岸つわぶき温泉 住吉屋6階からの景色は、佐渡島がとても近く感じられ、夕陽が海面をキラキラと輝かせ、ロータリアンを歓迎しているようでした。

年々、集うロータリアンが高齢化してきましたが、今年も一緒にロータリー談義で盛り上げられることが嬉しくて、新鮮な料理に舌鼓を打ちながら、皆さんの近況報告を聞かせていただきました。

翌日の30日（土曜日）はピーカンでしたから、さぞ暑かろうと思いましたが、海風と木漏れ日が清々しい山歩きでした。

国上山の山頂では、和牛ステーキや自慢のお酒など豪華なランチを堪能できました。

室賀年度の山の会も、ガバナーをはじめ地区事務所の皆様のご協力により実施する事が出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

富山年度の「山の会」の再会を祈念して、室賀年度の「山の会」報告とさせていただきます。





国際ロータリー第 2560 地区「山の会」の足跡

- ① 1991-1992 栗山ガバナー : 平標山
- ② 1992-1993 栗山ガバナー : 佐渡・金北山
- ③ 1993-1994 細瀬ガバナー : (群馬県) 尾瀬
- ④ 1994-1995 大島ガバナー : 米山
- ⑤ 1995-1996 重田ガバナー : (群馬県) 妙義山
- ⑥ 1996-1997 吉田ガバナー : 櫛形山
- ⑦ 1997-1998 久保田ガバナー : (群馬県) 子持山
- ⑧ 1998-1999 富山ガバナー : 火打山
- ⑨ 1999-2000 高木ガバナー : (群馬県) 尾瀬
- ⑩ 2000-2001 吉田ガバナー : 刈羽黒姫山
- ⑪ 2001-2002 野沢ガバナー : 守門岳
- ⑫ 2002-2003 佐野ガバナー : 五頭山
- ⑬ 2003-2004 原ガバナー : 上権現堂山
- ⑭ 2004-2005 横山ガバナー : 大毛無山
- ⑮ 2005-2006 神成ガバナー : 巻機山
- ⑯ 2006-2007 中條ガバナー : 平標山【平標山の家宿泊】
- ⑰ 2007-2008 渡辺ガバナー : 大蔵・菅名岳【出湯温泉 清廣館宿泊】
- ⑱ 2008-2009 馬場ガバナー : 栗ヶ岳【湯田上温泉 末廣館宿泊】
- ⑲ 2009-2010 植木ガバナー : 米山【柏崎海洋センター シーユース雷音宿泊】
- ⑳ 2010-2011 東山ガバナー : 鍋倉山【ゑしんの里 やすらぎ荘宿泊】
- ㉑ 2011-2012 石本ガバナー : 佐渡・大野亀、尻立山【ホテル浦島宿泊】
- ㉒ 2012-2013 鈴木ガバナー : 鋸山【山古志の宿 あまやち会館宿泊】
- ㉓ 2013-2014 山崎ガバナー : 高坪山【ロイヤル胎内パークホテル宿泊】
- ㉔ 2014-2015 佐々木ガバナー : 坂戸山【ホテル坂戸城宿泊】
- ㉕ 2015-2016 山本ガバナー : 角田山【寺泊温泉 住吉屋宿泊】
- ㉖ 2016-2017 田中ガバナー : 八石山【広田温泉(柏崎) 奥ノ湯 湯本館】
- ㉗ 2017-2018 新保ガバナー : 佐渡・石名天然杉～尻立山【ドンデン山荘宿泊】
- ㉘ 2018-2019 川瀬ガバナー : 番屋山【越後長野温泉 嵐溪荘宿泊】
- ㉙ 2023-2024 米山ガバナー : 佐渡・ドンデン山荘～金北山【ドンデン山荘宿泊】
- ㉚ 2024-2025 南雲ガバナー : 戸倉山【雨飾山荘宿泊】
- ㉛ 2025-2026 室賀ガバナー : 国上山【寺泊温泉 住吉屋宿泊】

* 大谷ガバナー年度・佐藤ガバナー年度・高尾ガバナー年度・高橋ガバナー年度
新型コロナウイルス感染予防対策として「山の会」は活動を中止しました。



防減災セミナー

ロータリー地域協働ネットワークセンター
センター長

大宮 一真（新潟東 RC）

令和8年5月30日（土）長岡市にて富山年度の防減災セミナーを開催し、無事に終了することが出来ました。今回は、40名弱の皆さんにご参加いただきました。

富山年度地区筆頭副幹事の小野塚様をはじめ地区役員の皆様、各クラブ連絡員の皆様、また日頃ご協力いただいている各協力団体の皆様よりご参加いただきました。

初めに、センター長の大宮より、挨拶と開催趣旨を話しました。次に協力団体の方々から自己紹介を含めお話をいただきました。

1部では、「最新の防災気象情報と避難所アプリについて」

公益社団法人 中越防災安全推進機構 地域防災力センター

センター長 野村 祐太様より、ご講演をしていただきました。

参加者からの質問もあり、皆さんの理解も深まったと思われます。

2部として前回から行った、各分区ごとのワークショップを今回も行いました。

ワークショップでの目的は、

「災害復興の段階で、ロータリーが地域貢献すべきことは何か？

各分区ごとに例題における課題を検討する。」

1時間ほど下記例題についてワークショップをしていただきました。

「例題」 お住いの地区で中越大震災規模の災害が発生し、

復興に約5年～10年と想定した場合

1、被害予想

2、復興期間中の想定される地域の課題

3、ロータリーとして地域貢献すべきこと

（具体的な内容）（その場合のロータリー側の課題）

分区ごとに例題を独自に決めて討議していただき、発表をしていただきました。

分区ごとの連絡員同士の連携と問題意識の共有に貢献できたと思っております。

最後に、富山年度地区筆頭副幹事の小野塚様より富山ガバナーエレクトからの講評を代読していただきました。

この度のセミナーは、発災直後のことではなく、復興期にロータリーとして、「何ができるのか？」今までと違った視点で行わせていただきました。

参加していただいた各クラブの連絡員の皆様ぜひ、自分のクラブでセミナーの事を発表していただければと思います。最後に、次年度以降も開催いたしますので、重ねてよろしくお願いいたします。



第1回米山記念奨学生親睦交流会が 開催されました。

米山記念奨学委員会

奨学生・学友委員会 委員

大野 博美 (新発田城南 RC)

6月6日(土)、新潟市ピア万代 ピーカン BBQ で2026学年度 第1回米山記念奨学生親睦交流会が開催されました。この日は晴天で米山記念奨学生23名、カウンセラーさん13名、高橋秀樹公財米山記念奨学会理事、米山記念奨学委員会委員、事務局の総勢53名のご参加をいただき、バーベキューを満喫しました。

最初に渡邊嘉子委員長から開催の挨拶があり、バーベキューの始まりです。53名は5つのテーブルに分かれ、各テーブルにはグリルマスターに指名された米山記念奨学委員会の委員が2名ずつ配置されており、食材を焼いてくれますが、見るに見かねてからか途中からは奨学生も手伝ってくれたり和気あいあいとした雰囲気です。食事でも会話も弾みました。

一昨年までは4月のオリエンテーション・歓迎会の後の正式な親睦交流会は8月末の親睦旅行までありませんでした。が、今回の6月での親睦交流会の開催で1年目の奨学生と2年目の奨学生との情報交換やカウンセラーさんとの会話もゆっくりと時間を気にせずに出来たのではと思います。これから1年、または、2年間の間にイベント参加や様々な活動をして行く中で、この早い時期での親睦交流会は奨学生同士、奨学生とカウンセラーさん、カウンセラーさん同士、奨学生と米山記念奨学委員会委員、カウンセラーさんと米山記念奨学委員会委員がお互いを知り、より良い関係を築くための足掛かりになったのであればうれしく思います。

結びになりますが、米山記念奨学委員会では未来に向けての事業として尽力してまいりますので、今後ともご支援ご協力の程、心よりお願い申し上げます。



第 2560 地区 2025-26 年度 5 月末 会員数報告

R C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2025年 7月1日	5月末 会員数	うち女性	増減
第1分区 (9クラブ)	／	-	378	380	46	2
新発田	3	31.2%	90	93	2	3
村上	4	23.7%	38	39	8	1
水原	3	31.4%	34	35	3	1
中条	3	100.0%	48	47	3	-1
新発田城南	2	29.7%	38	37	5	-1
豊栄	2	40.0%	21	20	2	-1
新発田中央	4	25.0%	44	44	5	0
中条胎内	4	51.3%	39	39	11	0
村上岩船	2	26.9%	26	26	7	0
第2分区 (9クラブ)	／	-	453	491	39	38
新潟	4	47.5%	74	80	3	6
新潟東	4	16.7%	66	78	12	12
新潟南	3	38.8%	114	116	9	2
佐渡	1	66.7%	3	3	0	0
新潟西	3	70.7%	53	58	4	5
佐渡南	2	14.9%	43	47	4	4
新潟北	3	27.9%	37	43	0	6
新潟中央	2	42.9%	24	28	1	4
新潟万代	2	55.3%	39	38	6	-1
第3分区 (5クラブ)	／	-	97	101	9	4
新津	2	56.3%	16	16	1	0
村松	3	59.1%	19	22	2	3
白根	4	29.4%	32	34	2	2
新津中央	3	41.7%	25	24	4	-1
阿賀野川ライン	3	60.0%	5	5	0	0
第4分区 (11クラブ)	／	-	343	340	33	-3
三条	2	17.9%	54	56	1	2
燕	4	42.1%	41	38	3	-3
加茂	2	23.1%	27	26	4	-1
三条南	3	25.6%	38	39	3	1
分水	3	62.9%	33	34	6	1
見附	3	10.0%	20	21	1	1
吉田	3	4.5%	23	22	3	-1
三条北	3	26.7%	46	45	4	-1
巻	2	9.5%	22	21	2	-1
田上あじさい	禰	16.7%	5	5	2	0
三条東	3	30.3%	34	33	4	-1

R C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2025年 7月1日	5月末 会員数	うち女性	増減
第5分区 (7クラブ)	／	-	283	294	30	11
長岡	3	59.2%	43	49	5	6
柏崎	3	57.1%	45	49	0	4
長岡東	2	32.2%	57	59	7	2
柏崎東	3	20.0%	38	40	4	2
栃尾	3	50.0%	19	17	1	-2
長岡西	3	27.3%	46	44	3	-2
柏崎中央	2	27.0%	35	36	10	1
第6分区 (6クラブ)	／	-	117	126	14	9
十日町	3	30.8%	38	39	8	1
小千谷	3	33.3%	25	30	3	5
雪国魚沼	3	66.7%	25	27	2	2
十日町北	2	0.0%	9	12	1	3
津南	3	36.4%	12	10	0	-2
越後魚沼	2	50.0%	8	8	0	0
第7分区 (7クラブ)	／	-	305	322	23	17
高田	3	41.8%	63	67	3	4
直江津	3	31.2%	74	77	7	3
新井妙高	3	55.3%	36	38	1	2
糸魚川	3	95.3%	45	43	3	-2
高田東	3	48.5%	30	33	2	3
糸魚川中央	3	55.6%	30	36	3	6
越後春日山	2	82.1%	27	28	4	1

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,976 人
5月末会員数	2,054 人
女性会員数	194 人
純増減会員数	78 人
My Rotaryアカウント登録率	39.9 %

地区主要行事予定

2026年6月22日現在

年 月 日			行 事	会 場
2026年 (R8) 富山年度	7月	母子の健康月間		
		1	(水) 第1回ガバナー会議/ガバナー・元・次期ガバナー懇談会	ヒルトン大阪
		5	(日) 第17回 青少年交換委員長会議	AP八重洲+ZOOM
		11	(土) 第1回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルイタリア軒
		18～19	(土～日) インターアクト年次大会	デュオセレッソ/妙高自然の家
		18	(土) 第1回財団セミナー	ホテルイタリア軒
		21	(火) ②佐渡RC、佐渡南RC 公式訪問	Ryokan 浦島
		22	(水) ①中条RC、中条胎内RC 公式訪問	中条グランドホテル
		25	(土) クラブ活性化ワークショップ	ホテルオークラ新潟
		25	(土) 森田年度ガバナー補佐会議	米百俵プレイス ミライエ長岡
		25	(土) 森田年度ガバナー補佐ラーニング パート1	米百俵プレイス ミライエ長岡
		31	(金) ②新潟東RC、新潟北RC、新潟中央RC 公式訪問	ANAクラウンプラザホテル
	8月	会員増強・新クラブ結成推進月間		
		5	(水) ②新潟南RC 公式訪問	新潟グランドホテル
		7	(金) 大学担当者向け米山制度説明会	ホテルオークラ新潟
		20	(木) ①新発田城南RC 公式訪問	割烹 はまや
		25	(火) ⑤長岡RC、長岡東RC 公式訪問	長岡グランドホテル
		27	(木) ⑤栃尾RC、長岡西RC 公式訪問	長岡ベルナール
		29	(土) 森田年度ガバナーエレクト結団式	上越市内
		30	(日) 第4回 IA合同会議	AP八重洲X + ZOOM
		30～31	(日～月) 第2回米山記念奨学生親睦交流会	未定

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
佐渡南	山本 政次	2026.05.01	スタジオマクワンカ	代表	写真・映像制作
見附	田中 義一郎	2026.05.01	(株)田中板金	代表取締役	建設業
新潟中央	石田 考志	2026.05.12	(株)石田建設	代表取締役	建設業
村上	平山 篤	2026.05.14	(株)神和商会	代表取締役	不動産業
新潟西	長谷川 将樹	2026.05.21	(有)石山板金興業	代表取締役	建築板金業
高田東	三原田 誠	2026.05.25	(株)三原田組	代表取締役社長	総合建設業
新潟南	安部 浩	2026.05.27	(株)大林組 北陸支店	執行役員 北陸支店長	総合建設業
長岡東	川上 賢	2026.06.03	あいおいニッセイ同和損害保険(株) 新潟支店長岡支社	支社長	損害保険



二度目の奇跡へ：ポリオ根絶という人類の使命 腕に残る「勲章」と、人類の勝利

第1地域 ポリオ根絶コーディネーター(EPNC) 松田 英郎（富良野 RC）

1980年、人類は医学史における最大の宿敵の一つであった天然痘を、この地球上から完全に根絶しました。私と同世代の方々であれば、自らの腕に刻まれた「種痘」の跡を覚えているはずです。小さな針がついたスタンプを押し、皮膚を傷つけてワクチンを塗り込むその手法は、決して洗練されたものとは言えません。化膿し、瘢痕として残るその跡は、現代の審美的な価値観からすれば「コスメチック」ではないかもしれません。しかし、その跡こそが、かつて人類を震え上がらせた死の恐怖から私たちが解き放たれた証であり、人類が英知を結集して勝ち取った「勝利の勲章」でもありました。

天然痘の根絶から45年が経過しようとしている今、私たちは二番目のウイルス、ポリオ（小児麻痺）をこの世から消し去ろうとする歴史的転換点に立っています。



ここでもう一人のポールを紹介します。

かつてポリオは、世界中で子どもたちの未来を奪う恐怖の象徴でした。その記憶を呼び覚ます装置が「鉄の肺」です。かつてサンディエゴで開催され世界協議会に参加した際、私は会場に展示されていたその実物を目にしました。学生時代に文献で見て「こんな大きなタンクの中に人を閉じ込めるのか」と驚愕した記憶が鮮明に蘇りました。現在の人工呼吸器の先駆けとなったこの巨大な装置は、かつて日本でも流行時に導入されていました。

2024年3月、この鉄の肺の中で70年以上を過ごした「ポリオサバイバー」のもう一人のポール、ポール・アレクサンダー氏が亡くなりました。彼は感染によって呼吸筋が麻痺しながらも、不屈の精神で弁護士資格を取得し、社会復帰を果たしました。彼の功績は称賛に値しますが、同時に、彼が歩んだ一生がいかに陰しく、過酷な闘いであったかを思わずにはられません。ポリオによる弛緩性麻痺は、四肢の自由を奪うだけでなく、呼吸という生命の根幹をも脅かします。その重症度は個体の免疫力や抵抗力によって様々ですが、一人の人生をこれほどまでに縛り付ける病を、私たちは決して看過してはならないのです。ポリオの恐ろしさは、その潜伏性と広がり速さにあります。実際に麻痺を起こすのは感染者の0.1%から1%程度に過ぎません。しかし、残りの99%以上は症状が出ない「不顕性感染」であり、本人が気づかぬうちにウイルスを排出します。つまり、一人の有症状患者が発生したとき、その背後にはすでに1,000人以上の感染者が潜んでいることを意味します。

ウイルスは人間の体内でしか増殖できません。だからこそ、下水道などの環境サーベイランス（監視体制）が極めて重要となります。2024年、パレスチナ自治区ガザ地区において戦闘を一時中断してまでワクチン接種が行われたのは、劣悪な衛生環境下で排出されたウイルスが、無防備な子どもたちの体内に入る連鎖を断ち切るためでした。たとえ戦火の中にあっても、ウイルスは国境も思想も関係なく牙を剥きます。ワクチン接種は、今この瞬間も子どもたちの命を守る唯一の盾なのです。

幸いなことに、ポリオウイルスは抗原性の変化が少なく、かつて日本を救ったワクチンが今なお有効です。しかし、課題は山積んでいます。これまで主流だった生ワクチンは、稀にワクチン由来のポリオを発症させるリスクを孕んでいます。一方、そのリスクを排除した「不活化ワクチン」を世界中に届けるには、莫大なコストと物流網が必要で現実的ではありません。

また、ポリオ根絶は単なる医療の問題に留まりません。安全な水の供給、徹底した公衆衛生教育、そして何よりも安定した社会基盤が必要です。ウイルスを消し去ることは、その国や地域の生活水準を底上げすることと同義なのです。

2031 年まで根絶目標が延長されましたが、これは決して敗北ではありません。最後の一步をより確実に、一人の取りこぼしもなく踏み出すための「決意の再設定」であると捉えるべきでしょう。

かつて日本もポリオの流行に苦しみ、当時の母親たちが立ち上がり、生ワクチンの緊急輸入を実現させた歴史があります。現在の日本は、全くワクチン由来のポリオが発生しない不活化ワクチンへと移行していますが、この平和な日常は先人たちのあらがうような努力の上に成り立っています。

ロータリークラブをはじめとする世界ポリオ根絶イニシアチブ(GPEI)が担う役割は、もはや単なる医療支援の枠を超えています。それは、グローバル化の中で失われつつある「他者への献身」を呼び覚まし、地球上のどこに生まれても「呼吸する自由」と「歩む権利」を保障するための平和運動です。ただ、GPEI に対してイギリス政府が 2026 年以降直接的な支援を中止したという報告は極めて残念と言うしかありません。

かつて私が開業した 1991 年、バブル崩壊や湾岸戦争による資材高騰という逆風の中、先人たちは日本の未来を守るために汗をかいてきました。今、私たちが次世代に残すべきは、卑屈感ではなく、世界を救ったという確かな「プライド」です。

ポリオという言葉が歴史の教科書の中にだけ存在する世界を。その実現のために、皆様のさらなるご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。





第2地域 ロータリー会員増強コーディネーター 若林 英博（東京麹町 RC）

突然ではございますが、「コーディネーターニュース」は、今期で一区切りとなり、今後は『ロータリーの友』へ引き継がれる予定と伺っております。前任の野口英一 RMC から引き継ぎ、2025年8月号から本号まで、原稿の取りまとめを担当いたしました。この一年間、ご多用の中で執筆にご協力くださいました地域リーダーの皆さまに、心より御礼申し上げます。お寄せいただいた貴重なご意見や実践例は、読者にとって大切な情報として積み重なり、今後のクラブ活性の一助となるものと確信しております。



さて、4月のクラブ活性化セミナーでは、「会員がやめないクラブづくり」～みんなで語り合おう～をテーマに、退会防止に焦点を当てた参加型プログラムを実施しました。我々 RMC は初日の午後のセッションを担当し、基調プレゼンテーション、分科会、まとめまで、年明けから準備を重ねてまいりました。

特に大切にしたのは、「退会は“届”の話ではなく、心の中で起きている“水位”の話である」という視点です。退会届が出るずっと前から、会員の心には不満、違和感、疲れ、孤立感などが少しずつたまっていくのではないかと。その水位に、私たちはどれだけ気づけているのかを共有しました。

ブレインストーミングでは、「会員のコップの水は、どんな時に増え、どんな時に減るのか」を話し合い、シナリオ演習では、役割や期待、周囲の言葉、小さな出来事が水位に与える影響を考えました。個人ワークでは、「防げた退会・防ぐべきだった退会」を振り返り、各地区で活用できる気づきや実践例を共有しました。

会員増強と退会防止は、両輪です。新しい会員を迎えるだけでなく、今いる会員が価値を感じ、居場所を持ち、ロータリー活動が続けたいと思える環境づくりが欠かせません。退会防止とは、退会届が出てから引き止めることではありません。会員一人ひとりの水位に早く気づき、声をかけ、名前を呼び、役割を託し、感謝を伝え、「あなたが必要です」という思いを届けていくことだと思います。今回の内容が、もっと元気なクラブづくりにつながれば幸いです。

なお、当日の資料やデータは、JAPAN PORTAL SITE に掲載されております。ぜひ各地区でご自由にご活用ください。

あわせて、本誌の発行を支えてくださいました国際ロータリー日本事務局の皆さまにも、厚く御礼申し上げます。



ARMC の黒川伸一さん(KUROCHAN)、樋口明さん(GUCCI)、白鳥敬日瑚さん(Swan)には、ロータリー研究会、活性化セミナーのいずれにおいても、準備から当日の寸劇まで大変お世話になりました。皆さまと一緒に笑いながら取り組めた時間は、私にとって大切な思い出です。心強い仲間に出会えたことに、心より感謝申し上げます。

なお、黒川さんは 2025-26 年度をもって ARMC をご卒業されます。これまで本当にありがとうございました。



地域リーダーの醍醐味について

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 瀧 満（中津 RC）

RPIC を拝命し、あっという間の1年が過ぎました。第3地域のガバナー、多くのクラブの皆様を支えられ、私のロータリーライフに新たなページを刻むことができました。任期はあと2年ありますが、地域リーダーの醍醐味をお伝えし、この役職を今から引き継いで頂く事になるロータリー会員の参考になればと考え、この紙面を使わせて頂く事にしました。



《地域リーダーの醍醐味》

1. Global Support Seminar (GSS)

エバンストンのワン・ロータリー・センターでの研修は世界各地から集まった地域リーダー約50名が毎日4コマのセッションを通じて、ロータリーの本質を掘り下げてゆきます。ロータリーの中核的価値観を体現できる最高のセミナーです。

2. ロータリーを俯瞰できるポジション

エバンストンで経験した世界のロータリー会員との交流で、クラブや地区の視点を超えた広い視野でロータリーを見る事が出来るようになりました。

3. 日本のロータリーの運営に携われる幸運

クラブや地区のことしか知らなかった私にとって、日本のロータリー会員全体のために日々尽力されている RI 理事他の多くの役職のご苦勞を目の当たりにし、そのお手伝いができることに誇りを感じるようになりました。

4. クラブ、地区を超えた交流

各地区、各クラブのセミナーや地区大会での講演に招かれ、私の今までの経験やGSSで研修して来た内容を伝えてゆく過程で生まれた全国的なロータリー会員とのネットワークは私の人生を大いに豊かにしてくれました。



最後に、ロータリー公共イメージコーディネーターとしての活動の1コマを紹介させていただきます。掲載の写真は、2720 地区で行われました“ポリオ根絶カラオケチャリティー大会”に参加した一コマです。皆様のクラブでの積極的なイメージアップ活動を期待しております。



1 第2610地区学友会 創立20周年「新たな一步」

第2610地区米山学友会の創立20周年記念式典が5月16日に開催されました。

記念式典には、地区内のガバナー・ガバナーエレクト・ガバナーノミニー・パストガバナーをはじめ、地区米山委員長・委員、

カウンセラー、現役奨学生・学友と、地区を挙げての集まりとなりました。また、国内5地区の米山学友会代表者も集結し、参加した約80人が節目を祝いました。

式典では、20年の歩みの紹介や表彰が行われたほか、記念講演として輪島塗の田谷漆器店代表の田谷昂大氏が登壇。家業の被災体験と能登復興への熱い思いを語り、会場は深い感動に包まれました。翌日はバスで能登へ移動し、復興支援活動を実施。七尾RCから心の復興に焦点を当てた支援活動の紹介を受けた後、穴水町の千手院にて能登キリシマツツジの苗木57本の植栽を行いました。その後、お堂の中で琴の演奏を聴きながら抹茶のおもてなしを受け、奨学生の感謝のスピーチが全員の胸を打ちました。



同地区学友会の
範雋偉会長（2015-17／小矢部RC）は、「米山学友、ロータリー会員、関係者相互の絆を一層深めるとともに、

能登復興への思いを共有し、次の未来へ向けた新たな一步となる大変有意義な機会となりました」と述べ、地区一丸となって奉仕の絆を深めた一同は、今回の節目を契機として、2028年に同地区で開催予定の「米山学友による世界大会」の成功へ向けて、さらに学友会活動を盛り上げていくことを誓い合い、2日間の充実したプログラムを締めくくりました。



苗木の植栽をする参加者たち

2 米山学友から的高額寄付「優秀な学生たちのために」

中国出身の米山学友で、東京赤坂RC会員の千葉鴻儀さん（1990-91／熊本グリーンRC）が、優秀な学生たちを支援したい、との思いから500万円の寄付をしてくださいました。そのメッセージをご紹介します。



【千葉鴻儀さん】

今回の寄付は、米山奨学会への恩返しです。経済的に困窮している時期に受ける奨学金が、苦学生にとっていかに大きな支えとなるのか、その重みは、経験した者にしか分かり得ないものだ痛感しております。これまでも毎年100万円ほど寄付を続けてまいりま

したが、今回は、よりまとまった形でお役に立ちたいと考えました。中国のことわざ「受恩滴水、報恩湧泉（一滴の水の恩には湧き出る泉のごとく報いるべし）」という言葉がありますが、私は今、まさにそれを実践しております。母校である熊本学園大学にも、当時の指導教授の名を冠した奨学金を設立いたしました。志ある優秀な学生たちが、経済的な理由で夢を諦めることなく学び続けられるよう、少しでも力添えができれば幸いです。ロータリー会員の皆さまが持つ慈愛の心と人間愛が、これからも世の中に広く伝わっていくことを切に願っております。

3 寄付金速報 一今年度の寄付実績は6月30日(火)まで一

前年同期比

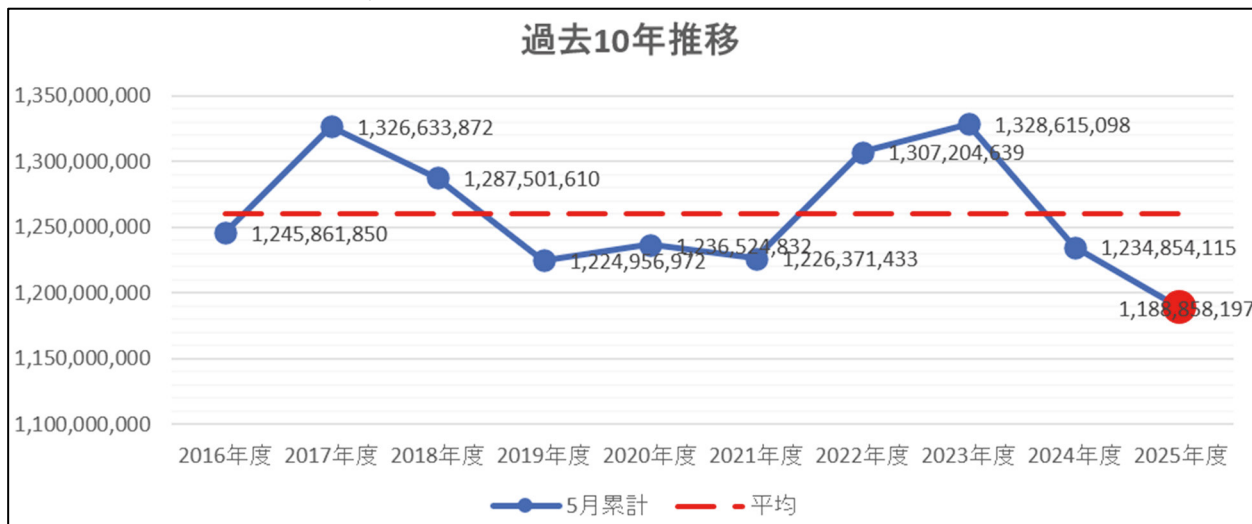
-3.7%

普 +0.3% 特 -5.7%

5月末までの寄付金は前年同期と比べて3.7%減（普通寄付金:0.3%増、特別寄付金:5.7%減）、約4,600万円の減少となりました。過去10年で最

も低い水準となっており、過去10年の平均累計寄付額と比較しても約7,000万円下回っております。今年度も残り約3週間となりました。2025年度の寄付実績は、普通寄付金、特別寄付金ともに、6月30日(火)までに当財団の銀行口座に入金記帳された分までとなります。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

過去10年推移



4 スリランカ米山学友会 創立10周年記念式典開催

5月31日、スリランカのコロンボにてスリランカ米山学友会の創立10周年記念総会が開催されました。式典には、磯俣秋男駐スリランカ特命全権大使、元RI会長のK. R. ラビンドラン氏、第3220地区ガバナーのデルヴィン・ペレイラ氏が臨席。当財団からは大久保章宏常務理事が出席したほか、日本からも多数のロータリー会員が集結。また、台湾の米山学友23人が参加し、会場には102人が集いました。



エクト紹介として、医療機器寄贈など、関わったクラブへの感謝状贈呈が行われ、感謝に満ちた総会となりました。

総会に先立ち、前日に前夜祭、31日午前にはコロンボのシティツアーを開催。戦後日本の主権回復と国際社会復帰への道筋を開いた最大の功労者の一人として知られる同国初代大統領、J. R. ジャヤワルダナ氏の記念館を訪問するなど、スリランカの街と歴史に触れる貴重な機会となりました。

式典は、スリランカの伝統舞踊で華やかに始まり、同学友会会長のサマンタ・テリジャゴダさん(2000-01/羽島RC)の挨拶、続いて大久保常務理事、磯俣大使、ラビンドラン氏、ペレイラ氏が祝辞を述べた後、学友会のこれまでの歩みが紹介されました。学友会10周年特別プロジ



記念館を見学